

生活を起点とした地域環境計画手法と実装 | 持木克之

私たちが毎日何気なく使っている電気、水道、下水道、ガス等の**生活インフラ**は、私たちが「使うまで」「使った後」に温室効果ガスが排出されるなど、**環境に影響を与えています**。私たちは生活インフラを使わずに生活することはできません。

生活インフラ等を中心に、①環境に影響を与える過程の見える化、②生活を考慮した環境影響の最適化、③計画段階での環境影響評価を通して、**カーボンニュートラルの実現を目指した研究**を行います。

この研究で**生活から生じる環境影響を無理なく減らす方法**を明らかにし、**身近な計画への位置付け**や**大学キャンパスでの実践**などの**社会実装**を通じて、地域脱炭素に貢献していきます。

①環境に影響を与える過程の見える化

- 生活インフラは多数の施設から構成されている
- 各施設の**運転データに着目し**、データを収集
- 施設間の関係性、運転データの相互関係を用いて、**モデル構築**
- 同モデルで**温室効果ガスの排出状況も見える化**

②生活を考慮した環境影響の最適化

- 見える化モデルを用いて、**環境影響低減の複数シナリオ**を検討
- シナリオ毎に、現状対比で、**生活に与える影響の程度**を示す
- 地域で実践可能な程度と環境影響低減の程度を**話し合い**、計画に位置付け、大学キャンパスなどで**脱炭素の実践（社会実装）**

③計画段階での環境影響評価

- 大規模な施設の建設時には様々な環境影響が見込まれる
- 計画段階からの環境配慮を実現する環境影響評価**制度に課題**
- 制度**運用の工夫**による対応方法、地域の理解を得た**脱炭素の推進に資する次世代型制度**を研究

